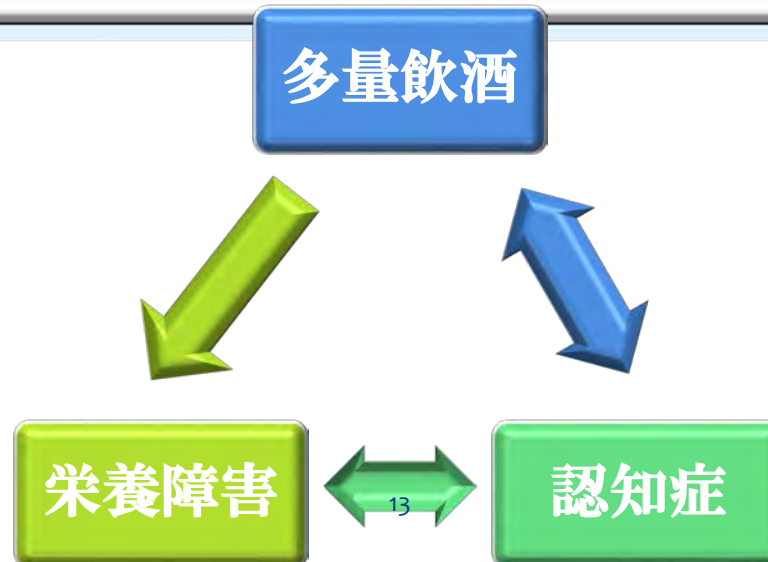


認知症/要介護者と飲酒問題

- 関西の介護従事者（ケアマネ、ヘルパー、看護師等）の**79%**が利用者の介護問題を経験（関西アルコール関連問題学会：介護現場でのアルコール関連問題Q&A筒井書房、2009）
- 認知症外来に通院する64名の認知症者の**31%**に現在または過去の飲酒問題あり（Larkin JP: Hosp Comm Psychiatry, 1994）
- 認知症外来通院患者65名を調査。男性の**12.5%**、女性の**9.8%**に現在または過去のアルコール乱用がみられた。乱用者の内、70%は認知症発症前から飲酒しており、30%は認知症発症後に飲酒問題が出現した（King et al: Int J Geriatr Psychiatry, 1986）
- 老人ホーム入所者の**26%**が依存症であり、**49%**は過去に依存症であった時期がある（Joseph et al: JAGS, 1995; Oslin et al: Int J Geriatr Psychiat, 1997）



高齢者のアルコール問題の特徴

- 高齢者は身体の老化に伴って、アルコールへの脆弱性が高まる
- 高齢のアルコール依存症受診者は増加傾向
- 約半数が**高齢発症**であり、高齢人口の増加に伴って増加すると予想される
- 高齢者は医療機関でアルコール問題を指摘されないことが多い
- **認知症**を高率に合併
- 認知症、要介護者の中でのアルコール問題の頻度は高く、飲酒は認知機能低下を促進する
- アルコール問題のある要介護者は問題行動が多く、**介護負担**が大きい

国内・外を問わず調査が少なく、
現状は十分把握されていない